

図書館へ行こう！

～いつも読みかけの本を！ 雨の多い季節がやってきました。鬱陶しい空模様が続くこの時期は、室内で過ごす時間が多くなります。

そんな日のために、いつも本を一冊そばに置いておきましょう。読みかけの本が常にあることで、皆さんの人生が少しずつ豊かになっていきますよ。

先生方おすすめの1冊

数学科 美 昭先生のおすすめ

村山 斉著『宇宙は何でできているのか』

- 宇宙はどうやってできたのだろう。
- 星はどうやって、何でできたのだろう。
- どうして私はこの宇宙にいるのだろう。
- 私の体はどうやってできたのだろう。
- 宇宙はこれからどうなっていくのだろう。

不思議な宇宙ですが、近年かなりわかってきました。宇宙の誕生は137億年前だそうです。どうしてそんなことがわかるのでしょうか。

宇宙全体の星の質量をすべて足し合わせても、宇宙全体の質量の0.5%しかない???

残りはどこにあるの。宇宙のかなたから飛んでくるニュートリノって何？小さな素粒子が、大きな宇宙を作っているって？

人類の永遠の疑問に挑む、限りなく小さくて大きな物語です。



「おすすめ」原稿は、生徒図書委員が先生方へ直接依頼するかたちで集めています。快くお引き受けくださり、図書委員一同感謝申し上げます。

英語科 クラーククリストファー先生のおすすめ

ウィリアム・ゴールディング著『蠅の王』

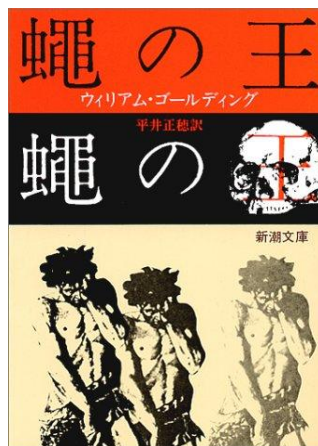
(原題: *Lord of the Flies*)

皆さん、こんにちは！クラークです。今回私のおすすめ本はウィリアム・ゴールディングの有名な1954年の小説『蠅の王』です。英語の勉強になるので英語で紹介したいと思います。

Lord of the Flies is the first novel written by Nobel-Prize winning English author, William Golding.

It is a fictional story of a group of British schoolboys who become stranded on a remote island in the Pacific Ocean after a plane crash, and their attempts to survive. At times, it is exciting suspenseful, dramatic, sad, and even scary. Many themes are covered in the book, such as morality human nature, group think, power, and even bullying. The book is deeply metaphoric and really makes the reader think and reflect.

I first read this book as part of my grade ten (high school, 1st grade). English class and it helped me to really appreciate literature and left an impression on me. It has been listed by Time magazine, Modern Library, BBC and others as among the best novels of the 20th century.



If you have an interest, please check it out in Japanese or English.

糊顔・懐メロズ 太宰治展

太宰治は、著した数々の小説の中で「名言」ともいべきいくつかの言葉を残しています。どんな場面が出てきた言葉でしょうか？ぜひ手にとって、読んでみましょう。

「人間は不幸のどん底につき落とされ、ころげ廻りながらも、いつかしら一縷の希望の糸を手さぐりで捜し当てているものだ。」『パンドラの匣』より

「人間の生活の苦しみは、愛の表現の困難に尽きるといいと思う。この表現のつたなさが、人間の不幸の源泉なのではあるまいか」『惜別』より
「ぼかんと花を眺めながら、人間も、本当によいところがある、と思った。花の美しさを見つけたのは人間だし、花を愛するのも人間だもの」『女生徒』より

太宰治展：図書館閲覧室入り口にて展示中



山梨県立文学館蔵